

小説のPR文を書く

読み手を意識して書く

小説などの書籍には、読んでみなくてもおおよその内容がわかるように、カバーや帯に読者の読む意欲をそそるような文章が書かれていることが多い。このPR文(宣伝文)は読者が手に取ったり買ったりするきっかけを作る上で大変重要なものである。

次の二つの文章は、「坊ちゃん」(夏目漱石)の文庫本PR文の例である。

四国の中学校に赴任した、江戸っ子教師坊ちゃん。あふれる正義感と行動が引き起こす事件の数々を描く痛快な青春小説。

主人公の特徴

内容

端的な評価

「痛快な青春小説」という断定、主張によって、小説を読む気持ちよさが示され、青春期にある読者、青春の息吹にふれたい読者を誘っている。

親譲りな無鉄砲が中学校の教師になった。生徒も敵ならば、同僚の教師もまた敵。坊ちゃんの正義と滑稽の裏に横たわる悲劇が、君には見えるか！

主人公の性格

作品の読み方の提起

学習のねらい

小説について、その魅力を端的に表現する力を養う。
小説を評価するための確かな判断力を育てる。
読者の求めるものを意識して書く。

小説のPR文を書く手順

小説のストーリー、内容を正確につかむ。その際あらすじを200字程度でまとめる。
小説の特徴を五項目ほど箇条書きにする。

主人公の魅力や特徴を五項目ほど箇条書きにする。

作家がその小説を書いたいきさつなどを調べて、メモする。

読者が最も興味を抱くと思われる点を、〽のメモから、一、二項目選ぶ。

小説に対する自分の評価と、主張したい点を考え、80字程度で文章化する。

効果的なPR文を書くために

文末は歯切れよくするため、断定表現を使う。

小説の内容に具体的に踏み込むことで読者を誘い、読者に語りかけることで読書意欲を喚起している。

